

News IR

IR（Institutional Research/インスティテューショナル・リサーチ）は、大学組織において何らかの決定を行う際に、それをサポートするための情報収集と分析を意味します。

二松学舎大学においても、大学の機関活動に関するデータ収集・分析を行い、大学がどのような課題を抱えているのか、その課題はどのような要因と関連しているのか、今後どのような意思決定を取り得るのか等を客観的に把握し、政策形成・意思決定を支援するための活動を行っています。

2018年度2号（通巻第6号）

Contents

| | |
|-------------------|---|
| ◆「PROG」の実施について | 1 |
| ◆今年度「PROG」の結果について | 2 |
| ◆「PROG」結果の活用について | 4 |
| ◆二松学舎憲章 | 4 |

◆「PROG」の実施について

昨年に引き続き、2018年4月に、本学の1年次生、3年次生を対象として、ジェネリックスキル測定ツールである「PROG」を実施しました。

近年、社会・経済・文化の各方面において、獲得した知識・スキルを革新し続け、自ら成長し続ける力の礎となる汎用的な能力・態度・志向、つまりジェネリックスキルが求められています。このような社会的背景のもと、本学では、昨年度よりジェネリックスキル測定ツールである「PROG」を学生の任意受験（無料）にて実施しています。

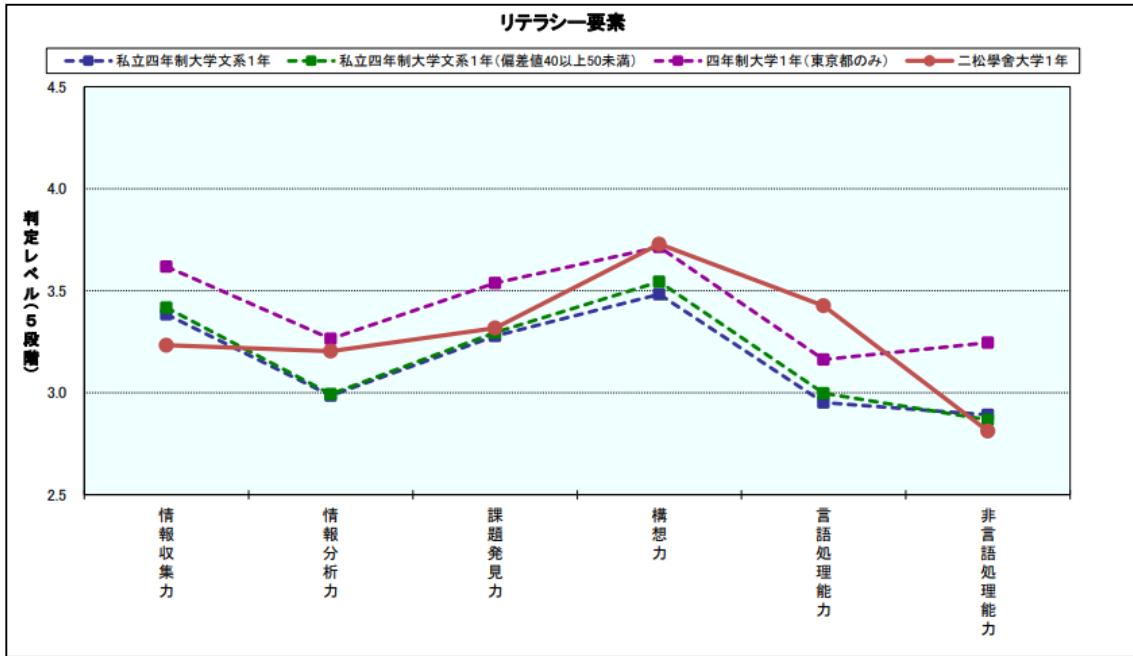
「PROG」では、ジェネリックスキルの育成を目的に、「リテラシー（知識を活用して問題を解決する力）」と「コンピテンシー（人と自分にベストな状況をもたらそうとする力）」の2面から測定する、ペーパーテストを行っています。

今年度の受験者数は、1,085名（1年次生760名、3年次生325名）となっており、昨年度に比べ242名の増加となりました。今後も継続して「PROG」受験者数が増加するように働きかけていく所存です。

◆今年度「PROG」の結果について

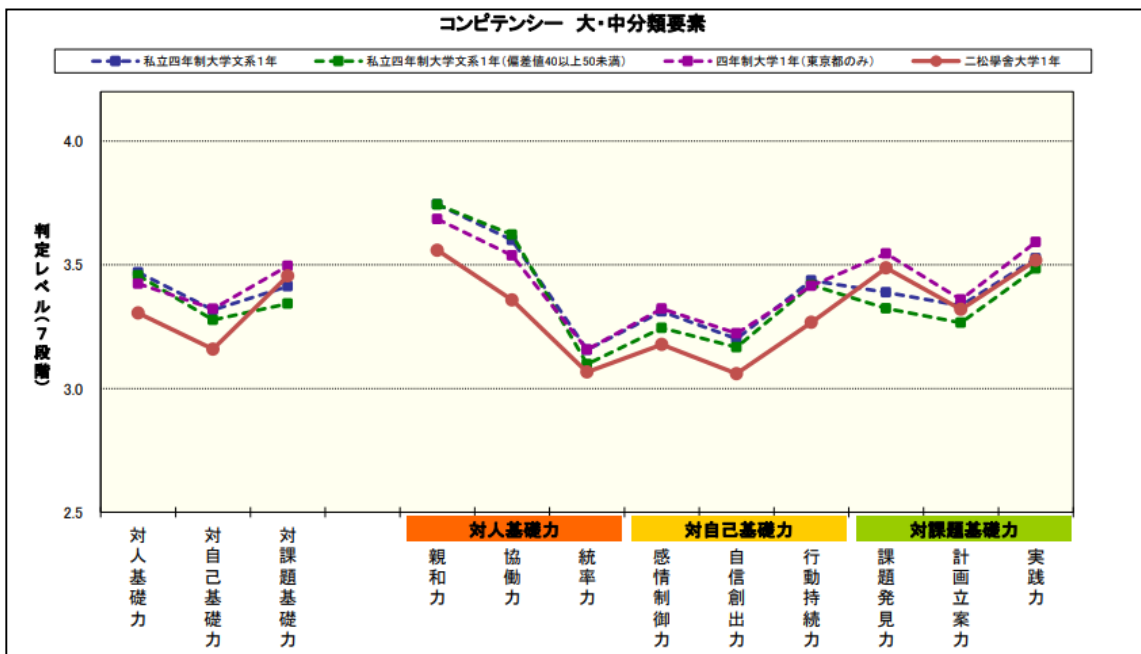
1年次生の傾向【リテラシー】

私立四年制大学文系1年を基準値として、平均値を比較すると、課題発見力が上回る傾向にあり、情報分析力、構想力、言語処理能力が高い要素としてあげられます。一方、情報収集力と非言語処理能力が低い結果となっています。



1年次生の傾向【コンピテンシー】

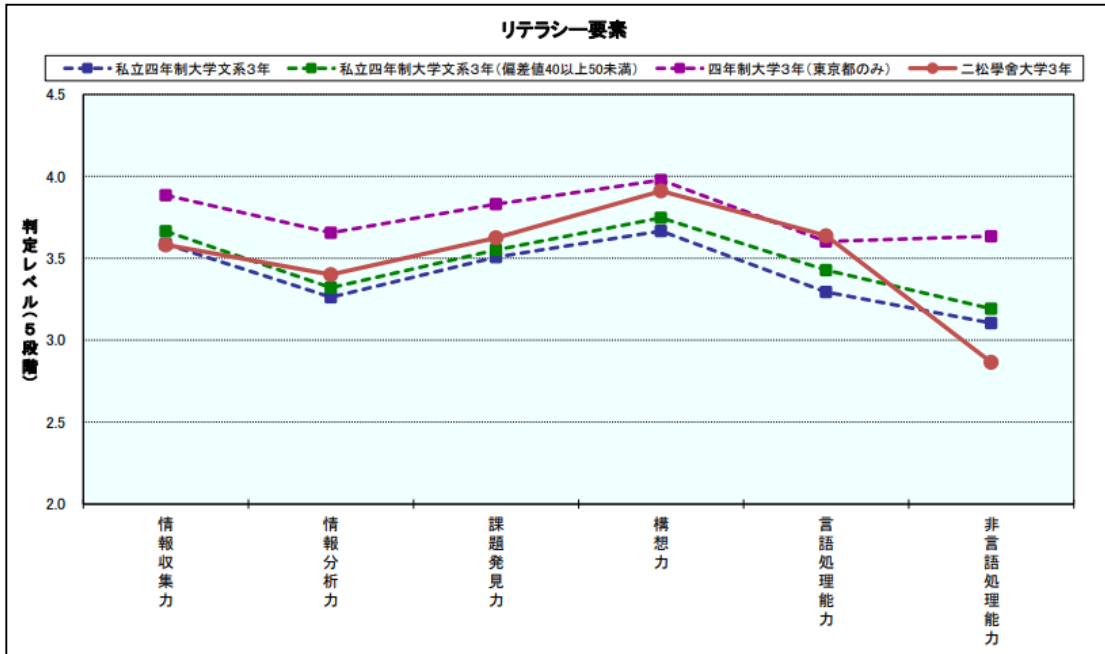
私立四年制大学文系1年を基準値として、平均値を比較すると、課題発見力が上回る傾向にあり、統率力、計画立案力、実践力が下回る傾向にあります。また、親和力、協働力、感情制御力、自信創出力、行動持続力も低位となっています。



3年次生の傾向【リテラシー】

私立四年制大学文系3年を基準値として、平均値を比較すると、情報分析力、課題発見力が上回る傾向にあり、構想力、言語処理能力が特に高い要素となっています。一方、情報収集力が下回る傾向にあり、非言語処理能力が低い要素となります。

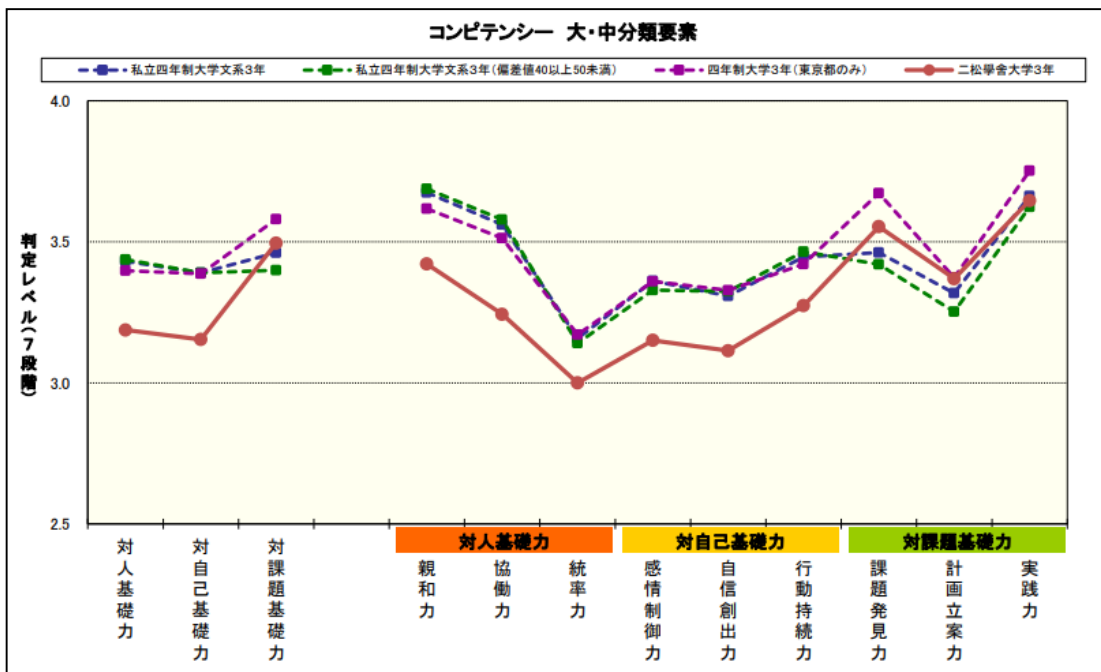
1年次生の波形と比較した特徴としては、全体として3.5前後に上方シフトし、課題発見力が特に伸びており、学修成果が上がっていることが確認できます。



3年次生の傾向【コンピテンシー】

私立四年制大学文系3年を基準値として、平均値を比較すると、課題発見力、計画立案力が上回る傾向にあり、統率力、行動持続力、実践力が下回る傾向にあります。また、低い要素としては、親和力、協働力、感情制御力、自信創出力があげられます。

1年次生の波形と比較して大きな変化はありませんが、全体として対課題基礎力が上方にシフトしているのが特徴です。



◆「PROG」結果の活用について

学生の手元に届く「PROG」の個人結果報告書は、数値結果とイメージグラフィックで可視化され、学生が読みやすいよう、かつ自己理解を深められるように記載されています。また、個人結果報告書とともに、学生に対しては、「PROGの強化書」という名の冊子を渡しており、こちらには、学生自身が大学生活（授業、部活、サークル、アルバイト等）の中でジェネリックスキルをどう強化すれば良いか、ジェネリックスキルを身につけていくにあたっての行動のヒントが記載されています。今後は、1年次生と3年次生の時に「PROG」でのジェネリックスキルの測定をすることで、学生個々人の成長ぶりの可視化を予定しています。

加えて、今年度より、学生の「PROG」個人結果（要約版）が各学生のライブキャンパスにおいて閲覧可能となりました。ライブキャンパス画面の、「トップメニュー」から「eポートフォリオ」をクリックし、「学修成果管理」ページに遷移し、学生の氏名や学籍番号等を入力すると、「参照情報：自分史」に、「PROG診断結果」ページが表記されます。

「PROG」個人結果（要約版）は、本学キャリアセンターのキャリア相談においても活用されています。学生が、「PROG」結果をもとに、日頃から自己分析をすすめ、就職活動等において自己の長所や成長ぶりを説明することができるようになることを期待しています。

【二松学舎憲章】

<建学の精神の発揚>

- ・教職員は、建学の精神「東洋の精神による人格の陶冶」、「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成スル」の発揚に努めます。

<教育・研究の目標達成>

- ・人材育成のため、自らその体現者となるべく、自己研鑽に努めます。
- ・法令及び学則を順守し、道徳心と倫理観を持ち、職務に当たります。
- ・現状を把握し、自ら課題を見つけ、教育・研究の質の向上に努めます。

<学生生徒支援>

- ・教職員一人一人が、学生生徒の人格と人権を尊重します。
- ・教育・研究の充実に常に努め、教育・研究環境の整備を行い、学生生徒の満足度向上を目指します。

<社会貢献>

- ・教育・研究活動を通じて、地域社会への貢献に努めます。
- ・社会情勢に常に目を向け、国際社会と世界平和に寄与します。

【発行主体】

二松学舎大学
大学改革推進部 I R 推進室
〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

TEL (03)3261-1285
FAX (03)3261-7413
[E-mail] gakumu@nishogakusha-u.ac.jp